

第3回「栗東市土地開発公社経営検討委員会」の会議録

日 時	平成24年7月25日(水) 18:00～19:30
場 所	栗東市庁舎4階 第1委員会室
出席者	委 員...野洲委員長、駒林副委員長、内田委員、大川委員 栗東市...総務部長 (事務局)公社健全化対策課：課長、課長補佐ほか 栗東市土地開発公社...事務局
会 議 内 容	
<p>1. 開 会</p> <p>2. 会議の公開および会議資料の取扱いについて</p> <p>(結果) 会議は公開し、会議資料は傍聴者には会議中のみの閲覧を認める。</p> <p>3. 議事事項</p> <p><u>(1) 栗東市土地開発公社保有土地取得経過の検証について</u></p> <p>事務局から、委員会が抽出した7事業について外部作業機関が用地取得調査を実施した内容を説明。</p> <p>内容は、鑑定評価額を上回る取得価格、県事業への関与、取得手続きの順序、事業計画の見通し等について指摘があった。</p> <p>(委員からの意見・質疑)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事業計画の見通し」について <p>委 員...代替地を処分もせずに持ち続けているが、適宜見直しをすべきであった。 事務局...事業が遅れる状況になった時点で、処分等の対応をすべきであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「県事業(河川改修事業)への関与」について <p>委 員...県事業に、県の公社を使わずにあえて市の公社を使った。結果、事業が止まってしまった。何か文書で交わしているのか？ 事務局...覚書を交わしている。</p> <p>委 員...県と覚書があるのであれば、県に責任をとってもらわなければならない。</p> <p>委 員...県事業に協力することはやむを得ない面もあるが、事業が進まなかったり事業の見直しがされることになると、そのリスクを負ってしまう。</p> <p>委 員...県との覚書には、将来起こり得るリスクについて、市が負うことのない中身で交わしているのか？ 事務局...(謳われていないので)現在、覚書の変更に向けて協議中である。</p>	

委員...事業主体が県である事業がとまって、市の公社は金利負担をしている。
県はリスク分担をすべきである。

委員...金利負担と評価損を、全額市が負担をするとなると市民は納得しない。

委員...市との交渉では、県は誠実に対応すべきである。

・「取得手続きの順序」について

委員...市と公社は一体の関係である。内部統制ができていたのか。

事務局...組織上は今もそうになっている。市の決定事項と公社の決定事項が同等の内容で進んできた。

委員...事務局が同じで、一体であれば間違いは起こり得る。

(結果) 外部作業機関の報告に対して、委員会として追認された。

(2) 栗東市土地開発公社保有土地の資産評価について

事務局から、保有土地の不動産鑑定を実施した結果を説明。

- ・時価評価総額は、3,550,534 千円。
- ・保有土地簿価総額は、16,517,169 千円。(うち用地費 12,739,814 千円)

(委員からの意見・質疑)

委員...県内および市内でも、地価はバブル期と現在を比較すると時価は1 / 3程度にまで下落している。

長期の地価動向を、我々自身が認識した上で議論していく前提となる。

委員...このことで大半の用地が説明できる。

委員...時価と簿価の差も大きい。これを今後どうしていくかである。

委員...新幹線関連事業が約60%を占めている。県との関係はどのような状況なのか？

事務局...新幹線新駅中止後の後継プランの実施に向けて、人的支援や金銭的補助をいただいているが、継続して協議しながら進めている。

(結果) 時価評価額をみると、公社が置かれている状況は大変深刻であると認識された。

4. 閉会